

## 平成29年度第3回東海市地域公共交通会議 会議録

- 会議の名称 平成29年度第3回東海市地域公共交通会議
- 開催日時 平成29年12月22日（金）午前10時から正午まで
- 開催場所 東海市役所 302会議室（3階）
- 出席委員 佐治錦三（会長）、渡邊元芳（副会長）、嶋田喜昭（議長）、勝田厚秀、江尾国博、天野朝之、藤田重記、大脇美一、清 信裕、小林治代、伊藤 勝、大里美栄子、百田勇次、秋山和子、福士直子、吉川 登、岡田英雄、守山 睦、富田弘敏、桑原良隆、花田勝重
- 欠席委員 古田 寛、小野偉稔、川口松廣、脇田英雄
- 事務局 総務部長、危機管理監、交通防犯課長、同主任、同主事
- 傍聴者の数 1人
- 議題及び審議の概要
  - 1 開会のことば
  - 2 新任委員紹介
  - 3 会長あいさつ  
(会長)

循環バスの利用者が増えている中で、課題も増えてきた。平成31年度のバスの見直しに向けて活発な議論を行ってほしい。
  - 4 報告事項
    - (1) 前回の会議録の確認について
    - (2) 循環バスの利用状況等について
    - (3) 高齢者運転免許証自主返納推進事業について
    - (4) バスの乗り方教室の実施状況について  
事務局による資料2、資料3、資料4、資料5の説明  
(委員)

今般、中部運輸支局と愛知県警とが連携して、高齢者に安心して公共交通機関を利用していただき、自主返納を促していきたい。市町の担当者、警察署の担当者を含めて推進していくにあたり、好事例を探している。市町の中には、

よい結果がでないところもある中で、東海市は無料のパスケースの利用者も多く、自主返納推進事業の利用者も増えてきている状況である。自主返納推進事業の利用者数を教えてほしい。

(事務局)

平成28年度は156人、27年度は127人、26年度は98人となっている。

(委員)

社会情勢もあるかと思うが、要因としてはパスケースやタクシーチケットの助成が影響しているか。分析は可能か。

(事務局)

高齢者の事故がテレビ等で取り上げられた影響が大きいかと思う。

(議長)

年齢と返納理由のクロス集計が可能であれば報告があるとよい。

(事務局)

データはあるので、次回の地域公共交通会議で委員の皆さんに提供できるよう努める。

(議長)

バスの回数券やタクシーチケットは本人のみ使えるのか。

(事務局)

本人にお渡しはしているが、家族の方も使える旨伝えている。

(議長)

バスの乗り方教室について、今後は高齢者も視野にいれるとあるが事務局の方で何か方法等を考えているか。

(事務局)

具体的な手法は検討段階であるが、コミュニティーの会合等で、高齢者の方で乗り方がわからない、時刻表やルートがわからないという声をいただいているので、それらを参考にした教室を実施できたらよいかと考えている。

(議長)

運転免許証返納前の高齢者の方に、バスの乗車体験を実施するのがよいと思う。運転免許証を返納した後の生活が不安という方が、返納する前にバスの体

験乗車をすることで、生活の交通手段として利用できるという実感につながると思う。また、運転免許証の返納にもつながると思う。一度、体験していただくという趣旨で実施するのはよいのではないか。

## 5 協議事項

### (1) 東海市地域公共交通網形成計画の推進について

事務局による資料6～8の説明

(委員)

南ルートを市役所まで延ばしてほしいという意見について補足だが、太田川で乗り換えをするのはわかっているが、降りて乗ることが億劫で、乗り換えが高齢者には大変負担であるという声がある。

(議長)

今後のルートの改定に参考にする上で、乗り換えた後に市役所等、どこにくかを調査する必要がある。

(委員)

おでかけマップについて、とまと記念館をいれているが、毎日営業ではないので、休みの日についても入れたほうがよいのではないか。もしくは連絡先をいれると、行きたいという方がわかりやすいのではないか。

(事務局)

南ルートの市役所直行便については事務局でも意見を把握している。27年5月の改定時に、西知多総合病院の開院や、新しい施設ができたこともあり、ルートを延ばしたり、1ルートあたり100分にまとめるための見直しを実施したものである。乗り継ぎの利便性は向上したが、乗り換えが負担であるという声は把握しているので、見直しの際には検討材料としていきたい。また、とまと記念館についても、今回の資料についてはあくまで案であるので、意見を踏まえながら修正を行っていきたい。

(議長)

バスについては、ある部分を変えるとまた別の部分が悪くなるということもあるのでよく精査してもらいたい。

(委員)

循環バスの課題等ということで、解決方法などをあげられているが、今後実

施するアンケートを集計して要望等を把握した上で、今回挙げた解決方法を複合した形で検討していくことも考慮してもよいのではないか。様々な解決方法を検討した上で、方向性を提案していただき、この会議で皆さんと協議していきたい。

(事務局)

提示した解決方法を一つ選んで実施するというのではなく、皆さんに情報提供として提示させていただいた。提示した解決方法を複合的に考え、また、市民アンケートの結果を分析し、よりよい公共交通を目指していきたい。

(委員)

市民アンケートについて、現状でも利用者がどのぐらいの年齢層が多いのかある程度把握できていると思うので、利用者の多い年齢層を厚くアンケートをとる等の工夫もあるとよいのではないかと。

(議長)

市民アンケートはいつごろ実施予定か。

(事務局)

予算が決定すれば、来年度すぐに実施したいと思う。

(議長)

アンケートの対象者を抽出する際に、少し利用者層を意識するのもよいかと。

(事務局)

検討する。

(委員)

道路幅が狭い場所に対応する車両としてポンチョが走っていると思うが、それでも走行が難しいところはあると思う。小さな車に入れ換えたり、便数を増やすにしても、危険な箇所を見直すということは必要である。たとえば北ルートでは、朝の通勤時間帯には聚楽園に向かう自転車がが多く、道路も見通しが悪いため、しあわせ村で転回する際に非常に危険だという話を運転手から聞いたことがある。実際に運営会社側や運行を委託する市が、そういった危険箇所をどこまで把握しているのか。また、バス停の利用者数が少ないところは小さい車両でもよいと思うが、便数を増やすということになるとドライバー不足も懸念される。運転手の拘束時間が非常に長いそうなので、安全運行についてもリ

スキーである。

(事務局)

安全性の確保についても重要であると考えている。市民アンケート以外にも、運転手への聞き取り等を検討材料としていきたい。少人数のバスについては、先進事例として他の自治体がポンチョと併用してワンボックスを使っているところもある。東海市の実状にあったものを考えていきたい。いずれにしても安全性の確保ということを第一にして考えていきたいと思う。

(委員)

アダプトプログラムとは、公共交通を始めとする交通の根幹にある道路を養子として考え、みんなで受け入れてインフラを整備していこうという考え方だと思う。また、大人向けではなく次世代に繋ぐという意味で、アダプトプログラムを幼児や小学生、中学生に実施してもらう方がよいのではないだろうか。自分たちが使うものを自分たちできれいにするという意識を伝えることで、啓蒙になる。アダプトプログラムを、学校の中でも周知するとよいのでは。

(議長)

アダプトプログラムの登録団体には、小・中学校は入っているのか。

(委員)

入っていない。子どもだけでの実施となると安全性の問題もあるが、貴重な御意見なので参考にしたいと思う。

(委員)

75歳以上の高齢者無料化で、どのくらい医療費が削減できているのか。

(会長)

医療費という部分で、目に見える効果はまだ出ていない。ただ、運動施設等の利用状況は伸びてきており、健康づくりにおいて一定の影響はあるのではないかと思う。それぞれの人が健康づくりに努めることによって、健康寿命というものがわずかながら伸びているので、あわせて医療費が減っていくことも期待している。

(委員)

各地域でも、健康のために色々皆さんやっているだろうしそういうものを利用して遠くの人とも交流を深めようとするのはよいことだが、バスの赤字から

いくと、もう少し議論が必要ではないのか。考える余地がほしい。

(会長)

健康で、ウォーキングをする割合が増えると病院にかかる割合が減る、という話もあるが、残念ながらバスを使う人と使わない人との差がある。健康に対しての意識を市民1人1人がもってもらうことが課題かと思う。いろんな施策をやっていく中で、賛同して参加してくれる人も増えている。医療費でいうとまだ結果が出ていないが、まずは皆さんの意識を変えていくということが課題であると思う。

(委員)

経費から言えば、赤字が大きいのはわかるが、パスケースをもらったことがバスで出かけるきっかけになる方も多い。遠出をしたいという人も多くなってきたように思うので、効果は出てきているのではないかと思う。

(議長)

ある調査では、でかけることに意義があるのではなく、出かけた先で買物をしたり、おしゃべりをしたりすることが健康増進に繋がるという結果がある。

(委員)

バスの利用客の多い時間帯や少ない時間帯にあわせて、バスの大きさを変えることはできないのか。

(事務局)

ポンチョでも通行が困難である場所もあるので、ピンポイントで大型化するのは、現在のルートでは現実的ではないと考える。

(議長)

たとえば、バスのダイヤを延ばして増便する案について。1周を120分にするのはかなり長いといえる。現在の100分でも長いため、1周の時間についても重要な検討事項であるといえる。

(委員)

ダイヤを延ばすとなると、運転手不足もあるため労働時間の管理対応が非常に難しいものと思う。ダイヤが長くなるほど連続運転の時間や拘束時間が長くなる。資料でメリット・デメリットをあげているが、労働時間についても考慮が必要になる。

(委員)

南ルートに関しては、名古屋半田線の開通にあわせた南加木屋駅東ロータリーの整備計画もあるので、そのタイミングに併せることも考慮すべきでは。

(議長)

ロータリーはいつごろできるのか。

(委員)

当初は平成30年度だったが、もう少しお時間頂戴することになる。

(議長)

また、路線バスも利用者に伸び悩んでいるので、循環バスだけではなく、路線バスも含めて考えていかなければいけない。

本日いただいた意見も踏まえ、事務局で改定案等考えていただいて、会議で提示していただきたい。

<議長による承認採決>

## 5 協議事項

### (2) 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

事務局による資料9・10の説明

(委員)

資料10について、フィーダー系統の補助をもらっている市町村は提出をしなければならないものになる。今回、東海市は第三者評価委員会の対象とはならないが、委員会の対象となる市町と同様に作っていただく。

地域公共交通会議で実施している取組事項として75歳以上の高齢者無料化を挙げているが、他にも色々実施していることはあるので、もう1ページほど、事業として付け加えることでもよいのではないか。

(事務局)

適宜、追加・修正します。

(委員)

地域間幹線系統については、国庫補助をうけるにあたり県のバス協議会で計画を策定して国の認定を受けている。複数の市町村にまたがるバスではあるが、実際にバスを利用するのは地元の皆さんなので、地域公共交通会議でよく議論していただきたいと思う。幹線系統については、必要なデータを関係市町村に

送っていただき、関係市町村からも評価をお互い作ってもらう。お気づきの点があれば、皆さんから御指摘いただきたい。

(議長)

路線バスについて、横須賀線は、東海市の人が使うのが多いか、大府市の人が使うのか、どちらが多いか。どういう動きがあるか。

(事務局)

知多バスより受領しているデータによると、主に多いのは、大府市内で完結する利用と、市域をまたがる利用が同程度の割合で、東海市内で完結する利用がその半分以下となっている。

(議長)

大府市から東海市へ行く目的は把握しているか。

(事務局)

東海市内の高校へ通学を理由の利用者、あとは東海警察署の利用があると聞いている。

(委員)

1日の利用者が15人から150人までの路線が対象となってくる。利用者が減ると地域間幹線の補助金を外されることになる。幹線がなくなってしまうとフィーダーの補助がなくなってしまう。らんらんバスも補助がなくなるということ理解して、幹線を活性化する方法についても、この場でも色々と協議してほしい。

<議長による承認採決>

## 6 その他

(委員)

障がい者の方でタクシーを利用する方は少なからずみえる。合理的配慮の観点や本人も意向もあって介助をしないこともあるが、介助する場合に、タクシーの運転手には介助の資格がないため、大変時間がかかり運転手にも相当の負担が出てきている。福祉関係の協議会等には、福祉有償輸送で請け負っていただけないか相談させていただいている状況である。今後、福祉輸送についてはタクシーだけでなく、公共交通全体にも関係してくるものと思うので、御報告させていただくものである。



(議長)

一度、福祉輸送の制度について、取り上げる機会があってもよいかもしれない。

(事務局)

検討させていただく。

事務局より第3回の開催について案内

7 閉会のことば